

一人一人 自己発揮しながら、 人と関わることを楽しめる幼児をめざして

～思いやりの気持ちを育む環境づくりや援助を探る～



玉野市立日比幼稚園

〈めざす幼児像〉

思いを素直に表現する幼児

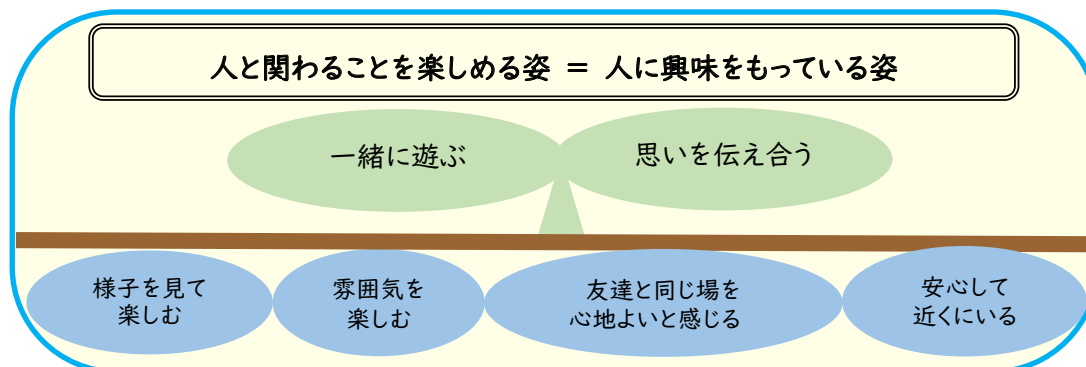
友達と一緒に楽しめる幼児

自分からやってみようとする幼児

I 研究の概要

〈人と関わることを楽しめる姿とは〉

周りの人に興味をもっている姿と考える。つまり、一緒に遊んでいる姿や思いを伝え合っている姿。そして、同じ場において場の雰囲気やみんなの様子を見て楽しんでいる、友達と同じ場にいることを心地よいと感じる、安心感をもって近くにいる、真似てやりたい気持ちをもっているなど、直接関わっていない場合でも、興味をもち心を寄せている姿も、人と関わることを楽しめる姿につながっていく姿であると捉えている。



〈人と関わることを楽しめるようになるために〉

幼児と教師、幼児と幼児が信頼関係を築き、安心感をもちやりたいことに進んで取り組む中で、自己発揮したり思いやりの気持ちをもったりしていくことが必要だと考える。

自己発揮するとは

幼児が自らやりたいことに取り組みながら自信をもち、自分の欲求や要求や感情を、言葉・態度・行動などで表現することであると考える。

思いやりの気持ちとは

友達と関わりながら、人にはいろいろな思いがあることを知り、自分と相手は違う思いをもっていることを理解し、相手の気持ちを想像したり感じ取ったりし、相手のために何かできないか考えて行動すること。そして、幼児は受け入れられ安定した気持ちの時に、気の合う友達や一緒にいたいと思う友達に対して思いやりの気持ちをもった行動をしやすいと考える。

2 研究主題にせまるための環境構成や教師の援助のポイント

環境構成

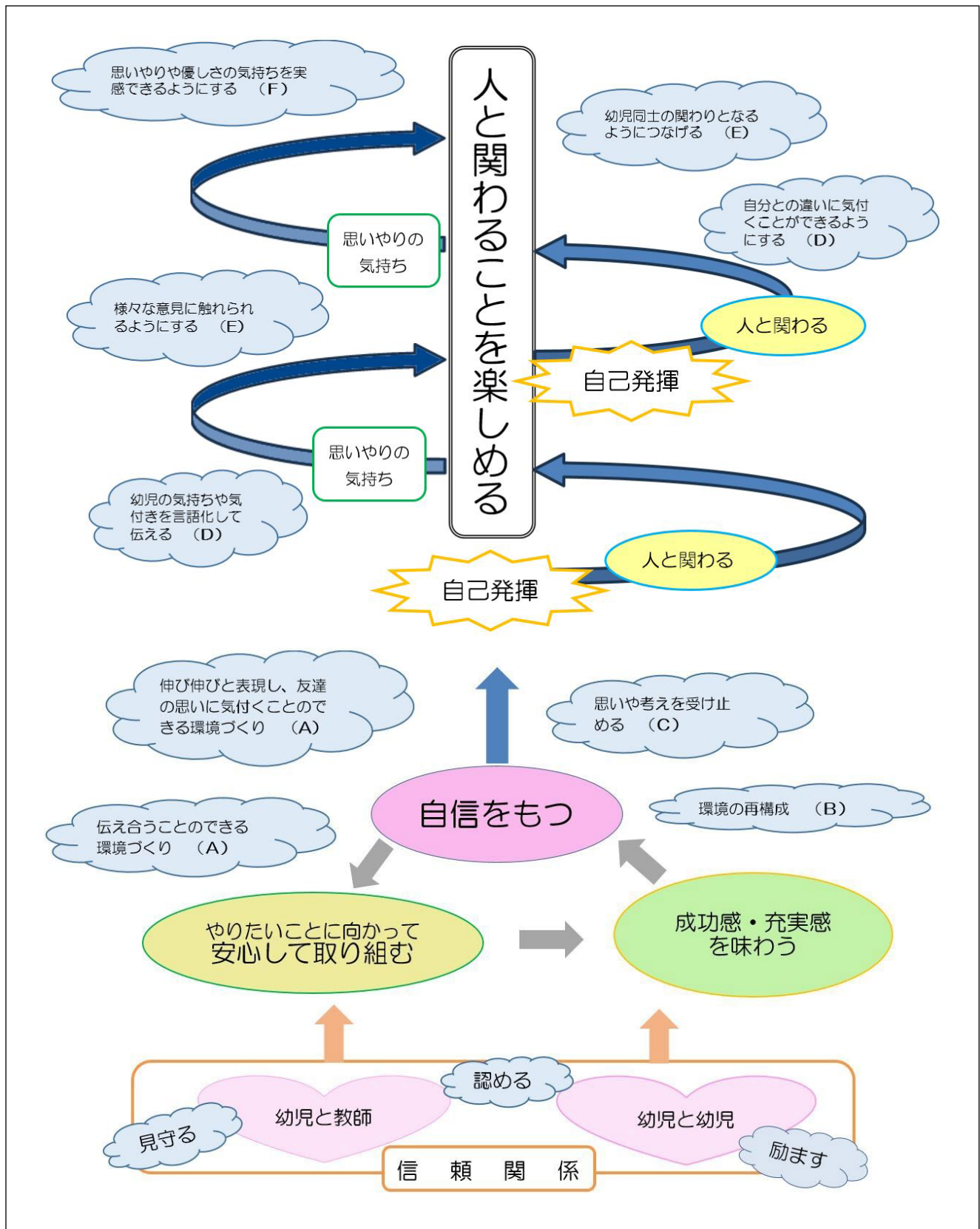
- A 幼児が自分の気持ちを伸び伸びと表現したり、友達の思いに気付いたりすることができるように、用具や材料の種類・数などを工夫することや、互いの思いや考えを可視化しながら伝え合うことのできる環境づくりをする。
- B 楽しんでいることや関心をもっていることを読みとり、繰り返し取り組んだり、試したりできるように環境を再構成する。

教師の援助

- C 思いや考えを大切に受け止め、教師も幼児とともに楽しみながら、幼児が安心して自分の気持ちを表現したり、やりたいことに取り組んだりし、自信をもつことができるようにする。
- D 幼児の気持ちや気づきを言語化し、幼児が周りの人の思いや気持ちを知り、自分との違いに気付けるようにする。
- E 幼児が自分の思いを伝えたり、様々な意見に触れたりできるように幼児同士の関わりを大切にし、互いをつないでいく。
- F 幼児が思いやりや優しさの気持ちをもって関わっていることを実感できるように、声を掛ける。



3 研究のイメージ図



4 公開保育にあたっての幼児の実態とねらい・内容

●3歳児 ちゅうりっぷ組

幼児の実態	友達や4・5歳児のしていることに興味をもち、体を動かす遊びや、ごっこ遊びなどをして同じ場で遊ぶことを楽しんでいる。遊びの中で楽しかったことや嬉しかったことなど自分の思いを話したい気持ちが高まり、教師に話を聞いてもらうことを喜んでいる。また、友達に親しみを感じ名前を呼んだり話し掛けたりし、友達の世話をしているが、いつも喜んでくれるとは限らず、互いに嫌な気持ちになることもある。
ねらい・内容	○同じ場にいる友達と遊ぶ中で、自分の思いを伸び伸びと表現しながら、先生や友達と過ごす楽しさを感じる。 ・自分の思いを先生や友達に聞いてもらう。 ・先生や友達と一緒に思い切り走る。 ・自分や友達がつくったものを使って遊ぶ。
=本日の保育と人権教育= 幼児の思いをじっくりと聞いたりくみ取ったりして受け止めることで、自分の思ったことや感じたことを伝え、聞いてもらう喜びを感じることができるようにする。	

●4歳児 たんぼぼ組

幼児の実態	運動会で5歳児が取り組んだりレーに興味をもち、繰り返しレーをしたり、異年齢の友達と一緒に十字鬼をしたりすることを楽しんでいる。友達がつくったものに刺激を受け、身近な素材を使い、ごっこ遊びに必要な物をつくったり、つくったものを使って、気の合う友達とごっこ遊びを楽しんだりしている。
ねらい・内容	○自分のしたい遊びをする中で、気の合う友達に思いを伝えながら遊ぶことを楽しむ。 ・友達や先生と一緒に体を動かして遊ぶ。 ・自然物や様々な素材を遊びに取り入れたり、工夫して使ったりする。 ・自分の気持ちを友達に言葉で伝えたり、友達の話を聞いたりする。 ・思いを出し合う中で、友達の考えや気持ちに気付く。
=本日の保育と人権教育= したい遊びに取り組む、気の合う友達に自分の思ったことや感じたことを伝えられるように橋渡しし、友達の思いにも気付きながら同じ場で遊ぶ楽しさを感じることができるようにする。	

●5歳児 すみれ組

幼児の実態	友達の遊んでいる姿や工夫していることに刺激を受け、「自分はどうしてみよう」と考えたり試したりしながら遊んでいる。また、友達と遊び方やルールなどを話し合い、順番を決めたり、「こうしたらいいかも」と方向性を共有したりしながら遊びを進めている。しかし、自分の思いを一方向的に伝えたり、自分に都合よく話をしたりするために友達に思いが伝わらないことがある。
ねらい・内容	○友達と共通の目的をもって遊ぶ中で、一緒に遊びを進める楽しさを味わう。 ・秋の自然物や様々な材料や用具を使い、考えたり試したりして遊ぶ。 ・自分の思いを友達に伝えたり、友達の考えを受け入れたりする。 ・友達を応援したり、友達の頑張りに気付いたりする。
=本日の保育と人権教育= 互いの思いや気付きを知ることができるよう働きかけることで、友達と思いを伝え合いながら遊びを進めたり、友達の思いを受け入れたりすることができるようにする。	

5 具体的な環境構成と援助

~~~~~ = 人権教育の視点      環境 = 環境構成  
3歳 = 3歳児      4歳 = 4歳児      5歳 = 5歳児  
(A)~(F) = 研究主題にせまるためのポイント(P3参照)

### 泡で遊ぶ

#### <準備物>

石けん、ボウル、泡立て器、ホイッパー、すり鉢、すりこぎ、コップ、デザートカップ、おろし器、皿、ゴムべら、スポンジ、花、野菜、木の実、種 など



#### (環境構成と援助)

**環境** デザートのイメージをもち、色がよくわかりつくりたいと思うように色々な形の透明の容器やスポンジを用意する。(A)

**3歳** 見てほしい、聞いてほしい気持ちに応え、つくったジュースやケーキを具体的に認め、聞いてもらう喜びを感じられるようにする。(C)

**4歳** できたもので友達とのやり取りを楽しんでいる姿を捉え、見守ったり、必要に応じて橋渡しをしたりすることで、自分の思いを伝えられた満足感をもったり、様々な意見に触れたりできるようにしていく。(E)

**5歳** ジュースに重ねたり、ケーキに乗せたりすることができるクリームの固さを考えたり、試したりしながらつくっている姿や友達と話をしながら花や木の実などを飾っている姿を認めていくことで、互いの考えを出しながら遊ぶ楽しさを味わうことができるようにする。(C) (E)

### 転がして遊ぶ

#### <準備物>

とい、ペットボトル、牛乳パック、空き缶、かご、木の実、カラーボックス、ウレタンレンガ、発砲スチロールレンガ、布粘着テープ など



#### (環境構成と援助)

**環境** いろいろな角度の傾斜ができ、試しながらつくりることができるように高さが変えられる台や長さの違うといを置いておく。(A)

**環境** 自分たちで高さを調整したり、必要なものをつくりたりすることができるよう材料や用具を準備しておく。(B)

**3歳** 速く転がった、途中で止まったなど様々なことに気付いて思わず出てきた言葉を受け止め、同じ言葉を繰り返して共感することで、もっとやってみようと思えるようにする。(C)

**4歳** 互いに声を掛けながら転がしたり、友達と一緒に転がる様子確かめたりしている様子を見守りながら、思いや気付きを言葉にして伝えていく姿を受け止め、必要に応じて思いを橋渡しし、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。(E)

**4歳** 教師も仲間になり、ともに考えながら、幼児のアイデアを認め自ら試す姿を見守ることで、思いえがいたように転がった嬉しさを友達と共有できるようにする。(C)

**5歳** 友達とどのくらい傾斜をつけるのか、どのようなコースをつくるのかを伝え合いながらつくりたりやり直したりする姿を認め、友達の考えを取り入れ遊ぶ楽しさを味わえるようにする。(E)

## ごっこ遊び

### <準備物>

木の実、木の枝、落ち葉、ウレタンレンガ、ダンボール、金網、  
幼児がつくった魚、竿、皿、トング、画用紙、油性ペン など



### (環境構成と援助)

**環境** 魚釣りやバーベキューごっこの材料や用具を幼児と一緒に分類して置くことで、自分たちで  
選んだり、繰り返し楽しんだりできるようにする。(A)

**3歳** 幼児と一緒に食材を焼く、食べる真似をするなどしてやり取りをして、幼児が先生や友達と遊  
ぶ楽しさを感じられるようにする。(C)

**4歳** 個々の幼児が楽しんでいることを受け止めながら、遊びの目的をもったり、周りの友達がして  
いることに目を向けたりできるようにつぶやくことで、友達との遊びのイメージをつなげて一緒  
に楽しめるようにする。(E)

**5歳** 友達とバーベキューや魚釣りなど共通の思いをもって遊ぶ中で、新たな考えを友達と出し合  
っている姿を捉え、みんなで考えながら進めていることを認め、もっとこうしたいという意欲に  
つながるようにする。(E)

**5歳** 年下の友達を仲間として一緒に遊びを楽しんだり、優しく接したりしている場面を捉え、その  
優しさや思いやりを意識できるよう、教師の嬉しい気持ちを伝え、自己肯定感を高めることが  
できるようにする。(F)

## 砂で遊ぶ

### <準備物>

スコップ(大・小)、バケツ、こて、とい、木の板、型抜き、  
塩化ビニル管、ウレタンレンガ、ペットボトル、じょうろ、  
水槽 など



### (環境構成と援助)

**環境** 長さや幅の違う木の板、ウレタンレンガ、じょうろ、塩ビ管、といなど様々な物を準備することで、  
幼児自らが考えて遊ぶことができるようにする。(A)

**3歳** 友達がつくったごちそうや穴に気付き、「つくってみたい」と伝えてきた時には、友達につくり方  
や必要な物を教えてもらえるよう一緒に尋ね、思いが実現できるようにする。(C)

**4歳** それぞれの思いを丁寧に聞き、互いに思いがあることに気付くことができるよう気持ちを代弁  
したり、一緒に考えたりすることで、思いを伝えながら友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえるよう  
にする。(E)

**5歳** 砂を固めたり、水路を掘ったりするなど協力しながらつくっている姿を認めるとともに、伝わって  
いないつぶやきが友達に伝わるように働きかけ、互いの思いに気付けるようにし、友達と遊び  
を進めていく楽しさを味わうことができるようにする。(D)(E)

## 体を動かして遊ぶ

### <準備物>

円錐、バトン、はちまき、ラバーリング、しっぽ、カセットデッキ、カセットテープ、ホワイトボード、遊びの表示用物 など



### (環境構成と援助)

**環境** 相談して決めた遊びに自分たちで取り組めるように、必要な用具は場の近くに準備しておく。(B)

**環境** 遊びの相談をしたり、チームがわかったりするなど遊びを進めていく時にみんなの考えや思いが共有できるボードを置いておく。(A)

**3歳** 教師も一緒に走ったり、逃げたりしながら、個々の頑張りや楽しさに共感し、幼児と一緒に遊ぶ楽しさや体を動かす気持ちよさを感じ、頑張った喜びやもったいたい気持ちをもてるようにしていく。(C)

**4歳** 同じ場にいる異年齢児と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、教師も仲間になって遊びながら、思いっきり走ったり、逃げたりしている姿を認めたり、やりきった嬉しさに共感したりし、満足感や達成感が味わえるようにする。(C)

**4歳** 異年齢児と遊ぶ中で、必要に応じてルールを確認できるよう橋渡ししながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。(E)

**5歳** 意見の食い違いがあっても遊びが進まない時には、それぞれの考えを分かりやすく伝う合うことができるように働きかけ、友達の思いや考えを受け入れながら折り合いをつけて遊ぶことができるようにする。(E)

**5歳** 最後まで一杯走っている姿やしっぽを取られないように声を掛け合っている姿などを認めたり、励ましたりすることで、友達の頑なりに気づき、一緒に頑張ろうという気持ちをもつことができるようにする。(F)

